

第2章 銃後

東京大空襲② 空襲の悲惨さ

ふなもと たつよ
船本達世さんのお話から

○東京大空襲 約十万人が亡くなった昭和二十年三月十日の空襲。空襲があつたのは、深夜〇時七分。冬の北西の季節風が強かつたため、火災が広がり、被害が大きくなつた。

○徴兵検査 徴兵適齢の男子に、兵役の適否を身体・身上にわたって検査すること。

○B 29 B 29は翼長四十三メートル、全長三十メートルもある体育館なみの大きさで、多数の爆弾を積み込んで長距離飛行ができる。

昭和十六年（一九四一年）十二月八日に太平洋戦争と呼ばれるアメリカやイギリスとの戦争が始まりました。当時私は、齒科医になるために、東京の大学で学んでいました。まだ学生でわからないこともある立場でしたが、あの大きなアメリカを相手に戦いを挑むなどということは、考えも及ばないことでした。しかし、どこで日本は進むべき道をあやまってしまったのか、戦争に突入していったのです。

当時、私は大学生でしたが、学生であっても学徒出陣といって、兵隊として戦争にかり出されていました。私も徴兵検査を受けました。私自身は終戦までに兵役はありませんでしたが、多くの仲間や先づいゝが戦地に行き、命を落としました。

戦争が進むに連れて、日本の本土に直接攻撃を受けるようになりました。東京の中心地ともいえる銀座の真ん中に爆弾を一発落とされたこともありました。そこでも多くの方が亡くなりました。その段階で、アメリカとの力の差は明確で、戦争をやめることもできなかつたので、戦争は長引いていきました。やがて、アメリカ軍の戦闘機による空襲が増え、東京のあちらこちらで激しい被害を受けるようになりました。

特に大きな被害を受けたのは、昭和二十年三月十日の空襲でした。東京大空襲と呼ばれる空襲で、約十万人の方が亡くなりました。アメリカのB 29という戦闘機が下町の方に向かって飛んでいきました。B 29という戦闘機はとても大きく、たくさん爆弾を積むことができた。いろいろな爆弾の中でも焼夷弾という爆弾をたくさん積んでいました。

アメリカは日本のことをよく調べていたようで、当時の日本の建物はほとんどが木造の家で、鉄筋コンクリートの家は少なかったのです。そういう建物の特徴を持つ日本を攻撃するには、燃やすことが一番よかったです。そのため、落ちるとぱっと火が噴いて家を焼いていく焼夷弾を大量に使用したのでしよう。

東京大空襲は、夜中に攻撃を受けたので、暗闇の中でみんな助け合いながら、逃げ回りました。しかし、延焼がひどく、次々に建物が燃えていくため、町中が火の海となり、逃げる事ができる安全な場所がなくなっていました。そんな中で、炎や熱さから逃れるために、川（隅田川）に飛び込んだ人たちがたくさんいまし



イメージ図

東京大空襲

た。

しかし、水温の低い冬の川です。翌日、助かった人がいるのか、見に行くど川じゆうが逃げてきた人の死体で埋まっています。おぼれて死んでしまったり、こごえて死んでしまったりしたおびただしい数の死体があったのです。上を向いているものや下を向いているもの、今にも沈んでしまいそうなものもありました。そういう無残な姿を目の前に見せつけられた時に、果たしてこれで本当にいいのだろうかと私は感じました。

私も空襲で家を焼かれました。家を失うということは、食べ物や物を失うことでもあります。東京じゆうの多くの家が焼失したわけですから、とにかく食べ物が不足しました。空襲後は、二日も三



イメージ図

空襲後の東京の町並み

○後楽園球場 東京都文京区にかつてあった屋外野球場。現在の東京ドームの前身。読売巨人軍の本拠地だった。

日も何一つ食べられないような状況になっていました。戦争当時、食料不足は慢性的に起こっていましたが、どんなに食料が不足しても、田畑を持つ農家には必ず食べ物がありません。だから、私は少しでも食べ物を分けてもらおうと思って、農家に向かいました。しかし、断られてしまいました。農家すら分けるものがなかったのです。

ひもじい思いを抱えながら、二、三日間、空腹を我慢しました。やっと食事にありつけたのは、後楽園球場ででした。

後楽園球場には、逃げ惑って集まったたくさんの人たちがいました。そこでは、兵隊さんたちが食べた残り物がありました。それを少しばかり分けていただいたのが、私の唯一の食料でした。

東京で私は戦争の悲惨さを体験しました。仲間を失う無惨さ、空襲の恐ろしさ、食料が食べられないつらさ。何でそんなことになってしまったのだろうかということが胸の中に湧き出てきます。話し合いで解決できなかったのだろうか。そんなことを考えてしまいます。世界中で戦争は続いています。地球上から残酷な戦争をなくすために、平和な国をつくり、世界全部が平和になってほしいと思います。みんなが本当に楽しく、なつかしく、そして話し合える、そんな世界にするために、自分のできることをやっています。私は考えています。

DATA

平成20年度南区平和事業
聴き取り

- ・平成21年1月24日
- ・石山児童会館



船本達世(ふなもと・たつよ)さん

- ・大正13年(1924年)生まれ
- ・札幌市南区在住